

## 第 1 回丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会での意見とその対応

項目		No	発言者	意見の概要	県の回答など	推進計画への反映
基本 目標	計画期間	⑦	市島地区 井上委員	由良川水系竹田川圏域河川整備計画(変更)の計画期間は20年と聞いたと思うが、総合治水推進計画の計画期間が10年で整合がとれるのか。	由良川水系竹田川圏域河川整備計画(変更)の計画期間は30年であり、その中で、総合治水推進計画の計画期間である概ね10年間で実施予定のものを推進計画に記載する。	修 文  P. 16「3-1 河川・下水道対策」に整備計画に示した河川整備のうち総合治水推進計画の計画期間内で実施しうる整備を着実に実施することを追記
	目標設定	⑧	市島地区 井上委員	上流に建設中のダムは竹田川の流下能力を軽減するのか。また、ためる施策についても目標が必要だと考えられる。	河川対策では、昭和58年9月の台風第10号程度の洪水(土師川合流点で900m <sup>3</sup> /s)を安全に流下させることを目標とし、河川改修やダム建設により、この目標を達成することとしている。流域対策については、この目標達成までの整備途上段階の施設能力を超える洪水や、目標達成後も目標を超える洪水の発生に備えるため、また、河川到達前の地先での氾濫を軽減していくため、流域における「ためる」対策をできることから実施していこうとするものであり、現時点では、流域対策の具体的な数値目標は設定していない。今後、推進計画の検討を進める中で、「ためる」施策の効果をわかりやすく説明していきたい。	修 文  P. 68「8 モデル地区での取り組み」に流域対策及び減災対策のモデル3地区を追記
基本的な方針	関係部局との連携	⑰	丹波市長 辻委員	河川整備の効果は出ていると思われるが、ゲリラ豪雨等、従前の計画では対応できない。農林と土木が連携し、一体で考えないといけない。	各関係部局と連携を図りながら、協働して総合治水を推進する。	反 映 済  P. 16「3. 総合治水の推進に関する基本的な方針」に記載済

項目		No	発言者	意見の概要	県の回答など	推進計画への反映
河川 下水道 対策	黒井川 の整備 促進要望	⑫	春日地区 尾松委員	春日地区住民から黒井川の整備促進の要望書を預かり、会長に提出した。黒井川は、これまでの40年で全長の半分程度の整備であり、今後、20年かけても整備が進まないことが懸念される。	下流部は災害復旧の助成事業で改修済み。その上流については平成4年から順次改修を行っている。藤林橋から船城橋までの改修について由良川水系竹田川圏域河川整備計画(変更)で新たに位置づけ、設計等を実施している。なお、黒井川の改修は、昭和58年9月程度の洪水に対し、家屋浸水を軽減することを目標としている。	回答済 —
		⑭	春日地区 尾松委員	黒井川の改修計画について、ホームページを見れない方もいるので、住民に対して情報を発信してもらえようをお願いしたい。	地元説明会等により、情報発信に努める。	—
	河川内の 堆積土砂	⑱	市島地区 井上委員	河川内に土砂がたまり、能力を十分に生かせていない。見直せるところは見直して実施してもらいたい。	財政的制約はあるが、必要な対応は進めていきたい。	反映済 P.16「3-1 河川・下水道対策」及びP.19「4-1-1 河道対策」に適切な維持管理を行うことを記載
	西紀ダム	①	道奥会長	西紀ダムは計画地域内か。であれば、ダムの治水活用について説明いただきたい。	西紀ダムは計画地域内である。計画地域内にあるダムの洪水調節容量等の諸元を推進計画に記載する。	修文 P.11「1-3-1. 河川対策」に洪水調節容量を備えたダム一覧を追記 P.34「5-3. ダム、ため池の治水活用」にダムの諸元を追記

項目		No	発言者	意見の概要	県の回答など	推進計画への反映	
流域 対策	公園貯留	②	道奥会長	資料3 P15 公園2施設とはどこか。	水切れ公園とハートタウン石生公園のことである。なお、資料精査により、該当する公園は9施設となる。	修 文	P. 25「5-2-1 学校・公園・ため池」の計画地域内の施設数を修文
	各戸貯留	③	道奥会長	資料3 P25のタンクの事前放流との用語の使用は適切か。	「事前放流」を削除する。	修 文	P. 32「5-2-4(1)雨水浸透貯留機能の備え」から該当箇所を削除
	森林整備	④	道奥会長	資料3 P31における森林の維持保全是、現状維持か、復元する必要があるのか。	適切に管理されている森林の維持とそうでない森林の機能回復の両方を意味する。		—
		⑪	丹波市森林組合 中尾委員	ワーキングでも針葉樹から広葉樹への転換の話があったが、春日地区では、3分の2が広葉樹、市島地区では2分の1が広葉樹である。広葉樹の整備には補助がないため、整備をしなければ広葉樹から崩壊していくことが懸念される。	地域住民や森林ボランティア等の参画のもと広葉樹林整備を含めた里山林対策を推進している。	修 文	P. 37「5-5. 森林などの流出抑制機能を有する土地の保全等」の本文最後に「④住民参画型森林整備」を追記 広葉樹整備については、同頁に「新ひょうごの森づくり」による里山林対策として記載済み
		⑮	篠山市長 酒井委員	河川整備は当然であるが、河川対策だけでは限界がある。山から一気に水が出ており、山地や田んぼでためることが重要である。河川事業には、何億といった費用がかかるため、山地等に思い切った予算措置を考えてもらいたい。	財政的制約はあるが、必要な対応は進めていきたい。		—
		⑯	丹波ひかみ森林組合 藤原委員	4分の3以上が山林で、山林の保全は重要であり、土地の保全について具体的にどのように行うのか記載してもらいたい。	森林の保全については、加古川地域森林計画及び丹波市森林整備計画に定める公益的機能別施業森林区分に基づき整備を進めることとしている。	修 文	P. 40 森林の保全に関する取り組み一覧、県の現在の取組みに以下を追記 加古川地域森林計画に定める公益的機能別森林区分に基づき森林整備を実施する。

項目		No	発言者	意見の概要	県の回答など	推進計画への反映	
減災対策	監視カメラ	⑤	道奥会長	河川監視カメラの整備箇所を教えてください。	丹波市市島町上田の一箇所のみ。	修文	P. 49「6-3-2 河川監視画像」に設置箇所を追記
	データ放送	⑨	市島地区井上委員	テレビのデータ放送が重要であるが、サンテレビでは竹田川の情報がながされていない。	県から要望は行っているが、テレビで流せるデータ容量に限りがあるため難しいという回答を受けている。引き続き要望は行っていく。 なお、インターネットでは閲覧可能であるため、活用願いたい。		—
	避難勧告	⑩	市島地区井上委員	避難勧告は、具体的な状況説明を併せて行うことが必要だと思われる。	被災状況、避難方法など、具体的な情報伝達に努める。	反映済	P. 51「6-3-4 防災行政無線、ケーブルテレビ、インターネット、市ホームページ等」に、積極的に情報発信することを記載済
その他	平成 25 年 9/2～4 の雨及び台風 18 号	⑬	道奥会長	昭和 58 年の洪水と今回の出水の規模ほどの程度違うのか。	今回の出水の検証は行っていないので一概には比較できないが、単純に雨量だけで言えば、昭和 58 年洪水時は、春日で 76mm/hr、277 mm/24hr、今回、9/2～4 は国領で 62 mm/hr、172 mm/24hr、台風 18 号では市島で 23 mm/hr、259 mm/24hr となっている。	回答済	—
	表現	⑥	丹波市森林組合中尾委員	森林の高齢級との表現は削除してもらいたい。	「高齢級」を削除する。	修文	P. 13「1-4-2 流域対策」から該当箇所を削除
	傍聴者からの意見 (船城地区)	ア		大雨の度に冠水がくりかえされている船城地区の現状について、話し合いの場を設けていただきたい。	地元説明会等が設けられるよう努める。		—
		イ		馬橋の中央の橋脚が流れを悪くしているため、橋脚の無い橋への改修をお願いしたい。	馬橋については、黒井川の改修に併せて架け替えを予定しており、構造等の詳細は今後検討していく。		—
		ウ		堆積土砂の撤去や堤防の整備をお願いしたい。	財政的制約はあるが、必要な対応は進めていきたい。	反映済	P. 16「3-1 河川・下水道対策」及び P. 19「4-1-1 河道対策」に適切な維持管理を行うことを記載済